



アスベスト対策は出来ることから早急に

多摩・生活者ネットワーク市議会議員 向井かおり



天然の鉱物繊維からなるアスベストは、安価で便利な工業材料として、特に、高度成長期に耐火・断熱材として全国の建設現場で使われてきました。細かい繊維を吸い込むことにより肺気腫などの健康被害をもたらすことから現在は使用が禁止されていますが、使用が認められていた時代の建築物は今、解体時期に入っています。特に大量にアスベストが使用されたとされる学校施設の大規模改修、解体が相次ぎ、ニュータウン開発当時の建築物が更新を迎える今、改めて市の対策を質問しました。

■スクールアスベストの正しい知識と情報開示でリスク回避を

多摩市では昭和62年、最も飛散しやすい吹付けアスベスト(レベル1)調査を学校で行い、除去を行ってききましたが、保温材アスベスト(レベル2)は、天井や壁などに封じ込められ存在しています。

一日の大半を過ごす学校施設でいち早く露出の発見ができるのは教職

員であることから、教職員への啓発を求めたところ、安全点検のレベルを上げるよう校長会や用務員会で周知するとの答弁。改修・解体工事においては、工事関係者だけでなく施設利用者や周辺住民への周知も強化するとの答弁でした。

■もっとも深刻な災害時のアスベスト処理

アスベスト除去には多大な費用がかかるため、民間の建物にはいまだ吹付けアスベストが残存しています。これらの混在がれきこそ、もっとも深刻です。阪神淡路大震災ではがれき処理に従事した市職員が17年後に肺気腫で亡くなり労災認定されています。市内アスベストの把握所有者への除去のお願いなど平時の備えを求め、国の交付金による制度を要望したり、マンシヨンセミナーや耐震セミナーの機会を活用し、啓発することが重要です。多摩市防災計画に基づく17のマニュアルで具体的に示すとの答弁を得ました。

自治基本条例10年目の課題/都市農業を進めるために/子どもを虐待から守る

多摩・生活者ネットワーク市議会議員

岩崎みなこ



■市民自治をすすめる

多摩市に自治基本条例が制定されて10年以上経過していますが、課題は多いと感じます。市は計画を時間をかけ公表しながら進めています。情報が行き渡らず、市民と大きなズレが生じ、提案された時には既に決定したことを説明されたとの印象があります。多摩市自治基本条例には、「人権を尊重し市民の責任で主体的に関わる」とあります。今回、自治推進委員会は、市長に自治推進に関する意見を呈したことで、市民が行政へ参画する方法の着地点を模索する思いで質問しました。

■新鮮な野菜の魅力を身近に

2018年度は2009年に改訂された農業振興計画の最終年です。次の計画立案には、市民もいれるべきと市民公募を提案しました。

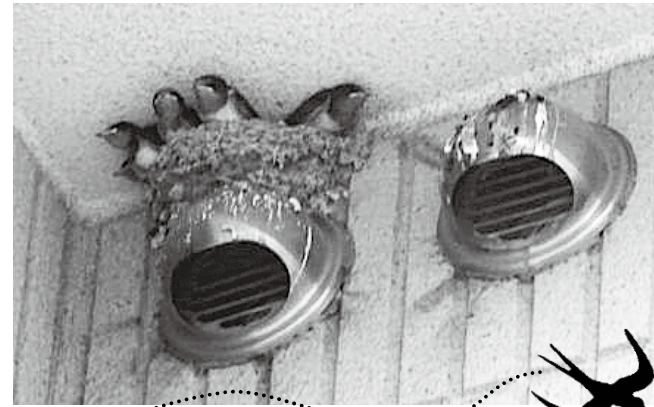
聖蹟桜ヶ丘のいきいき市、永山のポンテの地場野菜販売が市民に人気です。また女性農業者、若い世代の後継者、地場野菜を使ったレストラン

ンなど市内農業者の挑戦も活発になっていきます。市民にとって身近でとれた安全で安心な野菜を食べたい思いもあります。多摩センター駅付近での地場野菜販売所を提案しました。

■子どもが使える189に

厚生労働省の虐待の通告番号189(イチハヤク)の普及・啓発にあたり、大切と思われる視点を提案。このダイヤルは、子育てに悩んだとき子ども自身も使えます。人を頼るのは恥ずかしいことではありません。深刻な時だけでなく、ちょっとしたことで日頃から相談に使って、ひとりでかかえないで欲しいと考えています。

私が実施を提言しているCAPのプログラムは、子どもにも「自分で出来ることやってほしい」と伝えていきます。虐待を受けている子どもたちには「親を選べないのだから、あなたは悪くない」と気づかせると同時に、虐待の連鎖を食い止めることにも繋がっていきます。



ツバメ調査は、昭和61年(1986)、62年(1987)にパルテノン多摩が大規模に行っていました。当時の調査活動をした方にお話を伺いました。

「ツバメ調査員募集があり、それに応募しました。まず専門家のレクチャーを受け、ツバメについて詳しく学習しました。市内をいくつかの地区にわけて、怪しまれないように腕章をして、調べ歩きました。子どもと一緒に連れていたので、学校のクラスで話題になったり友達にも広がったりしました。毎日のように調査をして大変なこともたくさんありましたが、今では親子ですごした楽しい思い出になっています。」



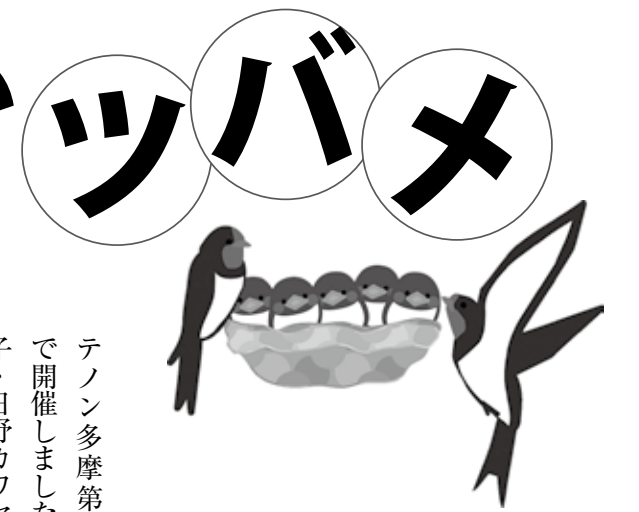
ツバメクイズ 初級編

- ツバメの大きさはどれくらいですか  
 ①スズメより少し大きめ ②ハトと同じくらい ③カラスと同じくらい
- ツバメの重さはどれくらいですか(1円玉は1グラムです)  
 ①20~30グラムくらい ②50グラムくらい ③100グラムくらい
- ツバメは冬はどこで過ごしますか  
 ①日本の四国や九州地方 ②東南アジア ③アメリカ
- ツバメは何を食べていますか  
 ①木についている虫 ②空を飛んでいる虫 ③地面にいる虫
- ツバメはどのような材料で巣を作るのでしょうか。  
 ①木の枝 ②土と枯れ草 ③コケ
- ツバメは一つの巣に卵をいくつ産むのでしょうか。  
 ①1~2個 ②4~5個 ③10個

ツバメに関するやさしいクイズ 中級編

- ツバメは1年に何回くらい日本で子育てをしますか  
 ①1回だけ ②1回~3回 ③4回~5回
- ツバメの子育てはオス親、メス親共同で行うのですか  
 ①主にメス親が行う ②主にオス親が行う ③メス親、オス親が共同で行う
- ツバメの子供は卵からかえってから何日くらいで巣立ちますか  
 ①約1週間 ②約3週間 ③約5週間
- ツバメは春日本に渡って来る時に家族一緒に来るのですか。  
 ①親子家族一緒に渡ってくる ②メス親とオス親の夫婦と一緒に渡ってくる ③家族単位でなく、1羽ずつ渡ってくる
- 次のツバメの仲間のうち、浅川流域(八王子、日野)で繁殖しないのはどれですか  
 ①イワツバメ ②コシアカツバメ ③ショウドウツバメ

知ってるようで知らない ツバメ 緑地はツバメの子育ての命綱



テノン多摩第2・3会議室で開催しました。講師は八王子・日野カワセミ協会会長の粕谷和夫さん。

身近な渡り鳥ツバメの生態を知るための学習会で、クイズ形式でお話が進みましました。ツバメの重さは20~30グラム、越冬先は東南アジア、エサは飛んでいる虫、1回の抱卵は4~5個、巣は土と枯草、年に1~3回子育てをする、子育てはオス親とメス親共同です、春は1羽ずつ渡ってくることなどを、クイズ形式で問われたのですが意外と知らないことが多い。

昔からツバメは田畑の害虫を食べる益鳥として大切にされてきましたが、都市化した今ではともするとフンが落ちるからと敬遠されたりもします。人も鳥も自然に生かされているという謙虚さがないと、生きものとの共生は難しい。講師の粕谷さんは、ツバメが減ることでの心の荒廃が進むのではないかと懸念

生活クラブ運動グループ多摩市地域協議会主催の「ツバメフォーラム ツバメが減って何が問題？」を11月8日(日)14時~18時



下のは昭和61・62年の調査と今回の調査の比較です。ツバメが少なくなった理由としては、巣の材料やえさを集める田んぼや畑の減少、天敵となるカラスの増化が考えられます。都市化がツバメの育つ緑地を奪い、それは人の良好な住環境まで奪ってしまうということに私たちは気づかされます。

2月20日、21日パルテノン多摩で行われる「エコフェスタ多摩」に参加し地図を展示します。ぜひ、ご覧ください。そして今年も引き続き調査を続ける予定です。一緒に調査をして下さる方は多摩ネットまでご連絡ください。

